



建 第 781 号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 殿

大野市長 岡田高大



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

貴職におかれましては、日頃から秩序ある国土形成とりわけ道路整備にご尽力を賜り深く敬意と感謝を申し上げます。

さて、平成20年9月19日付国道企第37号で依頼のあったみだしのことについて、別紙のとおり回答します。

今後も地域の要望を踏まえて必要な道路を着実に整備していただき、地方でも安心して暮らせるよう、なお一層のご高配を賜りますようお願いいたします。

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

本年5月13日に閣議決定された「道路特定財源等に関する基本方針」では、「道路関連公益法人や道路整備関係の特別会計関連支出の無駄を徹底的に排除する」とともに、「必要と判断される道路は着実に整備する」、「道路の中期計画は5年とし、最新の需要推計などを基礎に、新たな整備計画を策定する」とされたところであります。

この方針のとおり、道路関連の無駄な経費の削減、道路関連公益法人の改革等を早期に実行するとともに、真に必要な道路については、着実にかつ早期に整備されること、並びに、国民の安心、安全を確保し、日常生活に関する道路整備を今後も着実に推進していくことを強く期待するところであり、以下のとおり要望、提案します。

①高規格幹線道路網の整備

地方小都市では産科病院がなくなるとともに、中・高度医療サービスを受ける医療機関は遠方のため命が脅かされている状況です。また、地域中・高度医療機関も医師不足や経営が厳しく、機能維持のために広域的にサポートする体制が必要です。このため、国民の安心、安全の確保、医療の広域ネットワークの実現を図る高規格幹線道路網の整備は最も重要であります。また、本道路網の整備により、広域かつ地域相互の交流促進はもとより、企業立地や観光振興、物流の効率化、大規模地震時における代替ネットワークの構築等、地域の自立と活力が強化されます。

整備に当っては費用対効果や交通量のみでなく、地域の実情もよく熟慮して道路中期計画(5年)を策定されますよう強く要望します。併せて、スピード感ある整備を願います。(集中投資や土地収用法の改正等)

②生活幹線道路の整備と除雪経費の補助

山村集落等においては、人口、後継者が減り、高齢化が高まるなど、集落の存続も危機的な状況にあります。美しい国土を維持、保全し、次世代へ継承するためには、山村地域の振興を支援する安心、安全な道路の整備が不可欠となっています。また、市街地においても、未整備の幹線道路や通学路の安心、安全が確保されていないことから、今後も柔軟な支援を願います。

また、地方自治体が管理する道路は、建設後長期間を経ているため老朽化が進み、その管理費用は増大する一方であり、道路・橋梁補修についてさらなる国の支援をお願いするとともに、豪雪地域への道路除雪経費の国庫補助の新設を願うものです。

③地方公共交通機関の支援

地方都市圏では公共交通機関の経営が厳しく、その運行路線や便数が限られる中で、必然と市民は自家用車に依存せざるをえず、家族の成人一人が一台を保有しているような状況です。しかし、今後高齢化が高まることや地球環境の温暖化防止等にも配慮して、公共交通機関の再整備が必要であることから、道路関係予算等について、公共交通機関への支援、整備に柔軟に対応出来るよう制度の改正を願います。

④国・県道の見直し

社会経済が変化しまちづくりに支障をきたしており、更なる広域的な交流を推進するため、国・県道の見直しを願います。

大野市は、福井県の東部に位置し、市域面積は 872.3k m²でその 87%は森林が占めています。本市には、日本百名山の「荒島岳」や全国名水百選の「御清水」をはじめ多くの湧水地があることから、国土庁の「水の郷百選」にも選ばれるなど豊かな自然に恵まれています。また、市街地はその歴史的な風情や町並みから「北陸の小京都」と言われています。

本市の産業は、農林業、繊維産業、電子製造業等が基幹産業として推移していますが、企業誘致が難航する中で、近年は観光産業の成長が期待されています。

さて、現在「中部縦貫自動車道」が本市を東西に貫通する計画になっています。その内、関西・北陸方面からのアクセスとなる「永平寺大野道路」は現在事業実施中であり、平成28年度の完成を目指していますが、中部・関東方面からのアクセスとなる「大野油坂道路」は未だ基本計画区間であり、その整備は未定であります。本自動車道は北陸と中部・関東地方を直結することで、広域的な交通アクセス性を向上し、企業立地、観光振興や物流の効率化等、地域の自立に不可欠な最重要道路です。

計画区間である「大野油坂道路」と並行して走る道路は国道158号が唯一の道路であるとともに、大野市街地から油坂峠までの区間は急峻な山間を通り急カーブが連続しているため、交通事故が多く、平成8年から現在までに19名もの尊い命を亡くされ、距離あたりの死亡事故件数は全国平均の5倍になっています。また、豪雨や豪雪、事故等で通行止(迂回路がない)になることも度々であるため、自動車運転手はもとより、沿線住民は不安な中での日常生活を余儀なくされています。併せて、緊急車両は速度を出せないことから急病人の搬送にも時間がかかるなど、人命をも脅かされている状況です。

そして、大野市は平成17年に和泉村と合併したことから、当該国道区間は合併支援道路として早急な改修が必要な道路でもあります。

本市を通過する高速道路が未整備の状況であるため、ここ1年でも企業誘致は道路事情が悪いことから、5社に断られている現状であります。

このように、高規格幹線道路の持つ意味は非常に大きく、本市は本道路がないことから企業誘致や物流など産業の発展はもとより地域振興にも多大なマイナス要因になっています。

また、中心市街地では、居住人口が減少するとともに、高齢化率も高くなり、商店街の衰退をもとより、地域コミュニティも低迷しつつあります。一方、近年観光客が漸増していますが、そのアクセス道路等は未整備です。中山間集落部においても、過疎化が著しく、予備限界集落を抱えていることから、生活道路の整備や補修が必要です。

そして、本市にとって冬期の除雪は、生活上不可欠であり、その財政負担は雪国に住む人に大きな格差を与えている状況です。

このように、本市では活力が減退しており、その活性化には生活基盤として最低限の道路整備は喫緊の課題です。

R158 交通事故



R158 土砂崩れ



R158 雪崩

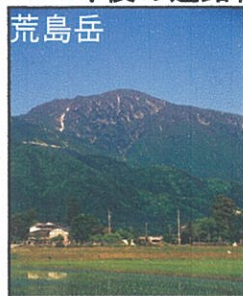


工業団地遊休地



②-2 地域の目指すべき将来像

今後の道路行政についての意見・提案



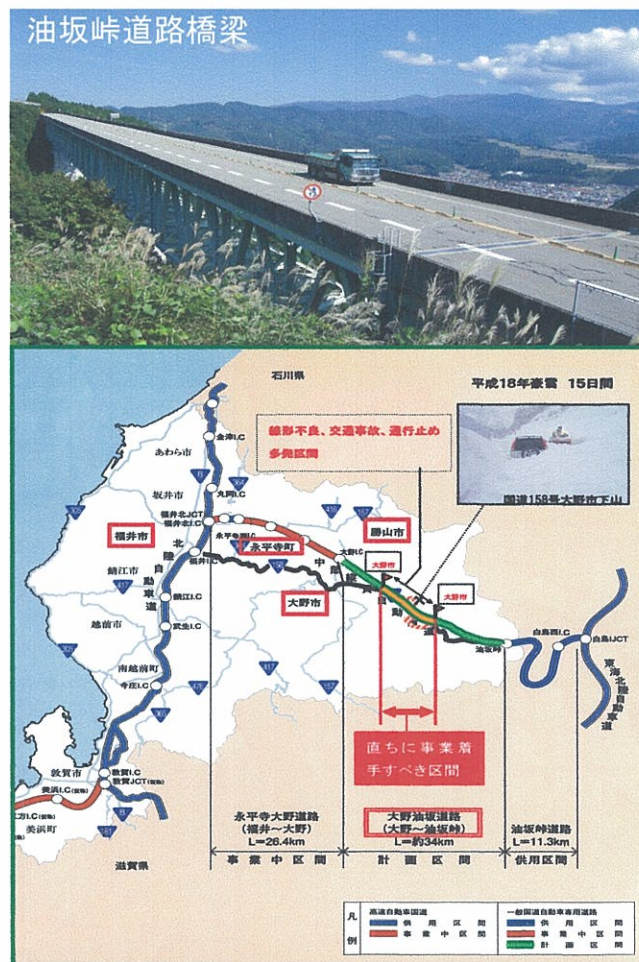
大野市では平成19年度から、未来の子どもたちのため、将来の大野市を豊かにするために、「越前おおの元気プラン」を掲げ、「人、歴史、文化、伝統、食、自然環境」など、大野が誇る魅力ある素材のすべてを「越前おおのブランド」とし、この優れた素材を活かしたまちづくりを進め、「元気なまち」、「住んで良かったと実感できるまち」、「子や孫に誇れるまち」、「こころ豊かな教育のまち」の実現のための施策に取り組んでいるところであります。

特に本市では、少子高齢化が進む中、市民の安心・安全の確保、医療の広域ネットワークの実現を図る上で、「中部縦貫自動車道」の早期整備は最重要課題で、「永平寺大野道路」はもとより「大野油坂道路」の早期事業化、早期整備を促進します。また、有機農業など環境に調和した「越前おおの型農業」や「エコ・グリーンツーリズム」等都市との交流を進めるため、幹線道路等の整備を推進します。

また、「大野市中心市街地活性化基本計画」が平成20年7月に国の認定を受け、「多彩な交流で賑わうまち」、「暮らしやすく便利なまち」の2本柱を中心として、今後も整備を進め中心市街地の活性化に努めます。併せて、歩道のバリアフリー化や景観重要道路の無電柱化を実施し、安全で魅力ある都市空間の形成を目指します。



様式 ③ 福井県 大野市



今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

福井県 大野市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	改修が進まない山村 集落間の道路  衰退が進む公共交通 機関(JR 越美北線) 	・災害(豪雨、豪雪、地震)や事故(救急)発生時にも機能が保たれる、道路の確保 ・高齢者や学生の移動手段の確保	
・地域活力の向上	電柱により景観を損ねている(景観重要道路の無電柱化の促進)  県境まで整備された中部縦貫自動車道。早期全線開通が望まれる。 	・城下町の風情ある美しい景観形成による、観光客の増加 ・安心・安全な通行空間の確保 ・物流の効率化、交流人口の増加など、地域産業の振興が期待される	
・少子・高齢社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成	バリアフリー化した道路  段差の解消されていない道路 	・安全で利便性の高い、歩行空間の確保 ・障害者や高齢者に配慮した道路整備	